

令和7年度第3回学校運営協議会議事録

令和8年2月27日（金）

記録者 吉田 新一

1 開催日時 令和8年2月4日（水）14:30～16:00

2 開催場所 岩手県立大東高等学校 会議室

3 出席者

菅野 佳弘様 摺沢市民センター所長

小原 玉義様 小原書店

菅原 正浩様 一関市立大東中学校長

加藤 麗子様 一関商工会議所大東支所長

菊池 亮様 （有）古鼎堂 代表取締役

小島 誉洋様 トータルインテリア創美 代表

勝部 健一様 株式会社熊谷林業土木・本校PTA 会長

山谷 英樹様 一関市大東支所次長兼地域振興会長

小野寺一喜様 一関市社会福祉協議会大東支部 主幹

佐藤 終平様 一般社団法人いわて圏代表理事

大石 敦子 校長 吉田 新一 副校長 木村 和明 教務主任

澁谷 仁 情報ビジネス科主任（吉田義紀事務長オブザーバー参加）

4 校長挨拶

- ・3年生の進路について、就職は100%内定、進学もあと数名。未決定者も希望実現に向けて頑張っているところ。本日3年生の登校日になっており、生徒企画で楽しみ会を実施した。3月1日に卒業式を予定している。
- ・1・2年生は明日より後期末考査。2月11日の大東大原水かけ祭りにはボランティアとして全員が参加する予定。いずれの学年も成長した。
- ・今年10月に100周年記念式典を控えている。記念講演は本校OBの清水真介氏（ホームシックデザイン代表アートディレクター）。講演に向け、4月から特別授業を数回行う予定である。
- ・再編計画の対象となるなど、本校にとって厳しい局面を迎えている。各方面との連携のもと取り組んでいきたい。

5 令和7年度活動報告（資料で説明）

6 学校評価アンケート結果について（資料で説明）

7 協議

（1）大東高校の志願者確保に向けた取組（魅力ある教育活動の実践とその周知）

○今年度の学校の取組について

（事務局）

- ・スクールポリシーの中学生への周知、学校の様子・生徒の活躍等の情報掲載、大東中の協力を得ての学校説明会の実施、活躍の様子を掲載したものを摺沢駅外壁に掲載、ポスターの掲載等を行った。
- ・来年度の取組については、今年度取り組んできたことで特に問題のないことは継続して実施。この他、ご意見をいただければお願いしたい。

（菅野会長）

委員の皆さんから、お一人ずつお話をいただきたい。

（A委員）

学校評価アンケートの自由記述にある「外部から見て本校が何を目指す学校なのかを理解してもらえれば中学生も本校を志望しやすいのではないか」とあるが、大東高校としてのビジョン（ポジショニング）や、どういう学校にしたいかということ、ベクトルをつくっていくことについて、学校や地域、大東高校プロジェクトのみなさん、先生や生徒にも入ってもらい、話し合うようなそうした場づくり（対話の場）が必要ではないか。

（校長）

令和に入ってから毎年入学者が減少し、地域の皆さんがどういう学校がいいのか、中学生を含めて対話が大事だと思っている。プロジェクト様からのご意見を聞いているが、教育課程の8年度分は決まっているので、9年度の入学者生からの分から、検討していくことになる。現在の進路志望を見ると、入学時で明確な生徒はわずか、3年生になっても決定できない生徒もいる。よって進学に特化したり、就職に特化したりするものではなく、それぞれの生徒の気持ちにより添って進路決定できるようなものにしたい。進学も就職もでき、個別に指導してくれる学校だと地域から捉えられる学校にしたいと考えている。

（A委員）

進学や就職は3年間の課程中で決めることで、学校としてどちらかにカテゴライズをすることではないと思っている。例えば学校として将来的な中核人材を輩出する学校にしたいなど、どういう人材を育てるのか、ということなどを見いだしてはどうか。

（B委員）

高校では学校HPやnote以外の媒体を使えるのか。子どもたちが見ているのはInstagram中心だが、学校としてはどうなのか。

（校長）

県立高校としては、学校HPとnoteで、かつて勤務した学校では生徒会で発信したいと

の話が合ったが、具体例は承知していない。

(B委員)

学校が無理であれば、プロジェクトで発信するとかできないか。

(校長)

一関市から市長様や教育長様のご配慮でコーディネーターが派遣されることとなった。HP や note 以外での情報発信以外の制約の有無等を確認の上、その方などを中心に検討してみたい。

(C委員)

2月より会計年度職員としてコーディネーターの派遣が決まっている。週25時間勤務で、大東高校にも週に数日勤務してもらう。志願者確保に向けて対話の機会の設定など、取組を大東高校とともに取り組んでいきたい。

(D委員)

大東高校のPRのためにSNSを活用してはどうか。しかし、どこまで可能なのが課題。学校としての発信なのか、生徒からの発信なのか、地域からの発信なのか。生徒が動画等を作って発信することにどこまで許可できるのか。また、ポスターを作っているが近隣の高校はコンビニなどを含め様々な所に貼ってある。大東高校も取り組んでみてはどうか。QRコードを添付してそこから動画につながるような工夫があってもいいのではないか。

(E委員)

子どもたちがなぜ大東高校を選ばないのか、考えてみたい。子どもたちの「市内へ行きたい」「大東高校にはやりたい部活がない」といった声を重視することが必要ではないか。大人の考えとは違った部分を高校生と中学生の対話の中で聞いてみるのもいいのではないか。また、情ビがあるのでプロ顔負けのPR動画をつくって生徒が面白いと思えるものを作るのもいいと思う。一方で、こどもの絶対数が少ないという事実があるので、難題に直面しているという思いもある。

(F委員)

学校評価アンケートの自由記述を見て、「水泳が嫌だ」という声が複数ある。また、校則が厳しいという声もある。寒くても上着を着てはダメ？風潮として大東高校に対するマイナスとなるような噂があるのでは？大東高校の校則をオープンにすることもあっていいのではないか。SNSを使ってポイントで何かやってみるというのもあっていいのではないか。

(G委員)

コンビニなどみんなが行くような所へのポスター掲示があってもいいと思う。また情ビのいいところをアピールしてほしい。資格取得もできるし、今はやってないが「とりもっちいバー」の販売のような生徒が楽しいと思うようなことをやってほしい。水泳は女子にとって抵抗は大きいと思う。

(H委員)

中学3年の進路希望について、大東高校の志願者は少ない。私立を含めて一関市内の高校への志望が多く、大東高校と近隣高校と合わせた数よりも多い。理由は部活動や将来の進路希望。その他に兄や姉が大東高校以外に進学して楽しそうだ、他の学校の体験入学で面白かったという理由もある。大人と中学生の考えることが違うし、個々の考え方が違うようだ。また、中学校が合併したことも影響していて、様々な人たちと関わりたいという子もいる。中学生に大東高校の魅力を伝えることが大切だと思う。

(I委員)

毎年であるが、降雪があると大東高校の野球部員が除雪作業をしてくれており、今年も2度除雪してくれたという話を聞いた。地域住民として感謝申し上げる。

高校出願に関する噂では、大東高校にとって大変厳しい状況のようで、将来的に2クラスを維持するのが困難な状況になるのではないかと。また、他地域の子どもたちも少ない。中学生が大東高校を積極的に選ぶ魅力が必要だと思う。情ビが将来の就職につながるというようなものを作らなければならない。この1年が正念場。学校は地域の宝なので、地域と学校で魅力づくりに努めたい。

(会長)

課題は皆さんが話したとおりである。高校が中心になって打ち出していないと、お金のことなど困っていることは地域に相談してほしい。かつて、仕事上で商工会議所に関わった際、工業系の企業は専門的知識も技術もある高専卒の生徒を求める。一方、商業系の企業からは企業会計を学んだ人が必要との声を聞いたことがある。情ビがあることを含め、大東高校が力を発揮する場面があるはずだ。商業というより経営を学ぶという考えも必要ではないか。

(校長)

様々なご意見、ありがたい。校則については、見直しや生徒の意見を聞いて対応したい。ポスターについては予算の都合があり、外部に委託せず自前のものを作成している。地域の方々にご協力いただきポスターの掲示を増やしたい。大東中学校さんには次年度も交流にご協力をいただけるとありがたい。第3期の高校再編計画の最終案については修正案から大きな変更はなく、大東高校に関しては「令和7年度までの入学志願者の状況等を踏まえて、令和11年度に情報ビジネス（商業）科を募集停止とします。」に「なお、令和8年度入試以降の入学志願者の状況や地域の実情等を注視していきます。」という一文が追加されること。本校は現在取り入れていないが、いわて留学という県外の生徒でも県立高校に入学できるという制度があり、本校も県外の生徒を対象に募集していく局面ではないかと個人的に考えている。岩手では地域ふるさと振興校として位置づけられており、実施校の様子を見ると、アパートや下宿を紹介するなどの住環境の紹介できる状況であることが条件となっており、そうした情報があればこの制度に手を挙げるができる。情報をいただけるとありがたい。

(会長)

可能性だけ教えて欲しいが、SNSでの魅力発信について学校あるいは生徒が発信することはできるのか。生徒が発信するというのは効果が大きいような気がする。

(校長)

内容によると思うが、学校として発信するとなれば内容のチェックが必要だと思う。生徒の端末から発信するにしてもSNSの使い方については指導が必要である。PR動画については作製して学校として発信することについては前向きに対応したい。

(会長)

情報ビジネス科の強みを生かしたいと思う。

(2) 地域や関係機関との連携について

(事務局)

今年度について、資料のとおり。今後の予定として3.11桜ラインへの参加と高田松原のボランティア参加を予定。ボランティアを含めて地域の行事に参加。次年度について、問題がなかったものについては継続できるものについては続けたい。またコーディネーターが配置されるので力を借りたい。

(会長)

新聞にも掲載されたが、「未来へつなぐ大東高校プロジェクト」という大東高校を支援する団体が結成された。他校と生徒を取り合うようなことではなく大東高校の魅力づくりのお手伝いをするを目的としたものである。大東と東山の地域共同体が関与しており、他に大東高校の同窓会やPTA、大東中学校や東山中学校のPTAも加わっている。

(3) 次年度における本協議会委員の外部委員増員に伴う推薦について

(事務局)

このことについて、第2回の本協議会の際に人選を含めてお願いしたいとお伝えしていた件である。I委員から推薦があったので、ここで発言をいただきたい。

(I委員)

大東高校の「応援団長」である同窓会から同窓会長と、「未来へつなぐ大東高校プロジェクト」が立ち上がったのでその会長を推薦したい。

(会長)

他には推薦する方はおりますか？なければこれを参考に人選をすすめてしてほしい。

(4) その他

(会長)

100周年の事業で講演の他に何か考えていることはあるか。

(校長)

周年事業としてはエアコンの設置、校歌の編曲をお願いしていずれも対応済み。部活動の交流試合なども話題に上がったが部員数減少で難しいと判断して実施しない。生徒全員が取り組めるものと考え、講演を本校 OB で県内高校の探究活動などにも関わっている方をお願いすることで進めている。講演の前に次年度 4 月以降ワークショップなどで生徒と交流する機会を数回設けて、生徒の心の中に残るものを造り上げよう、体感できるもの考えている。

(会長)

実は、皆さんで取り組んだことを発信できるものはどうかと考えていて、市民センターの事業というか共催にしてもらえればいいのだが、自衛隊や警察隊の音楽隊とのコラボなどを、大東高校 100 周年を看板にしてできないか、それを映像にして発信するなどはどうか。また、演奏に合わせて鹿踊りが演舞するなど面白いのではないか。市民センターを活用してもらえればと思う。

(I 委員)

入学式の体育館開催について、人数減で体育館以外での開催を検討してはどうか。

6 その他

(1) 次年度の本協議会の態勢について

(事務局)

次年度も引き続きご協力をお願いしたい。転出や異動等で退任せざるを得ないという場合は後任に引継をお願いしたい。

(2) その他

(会長)

次年度の大東フェスティバルを 11 月 7 日に開催する。千昌夫に来てもらう。皆さんで「大東音頭」を歌えればと思っている（大東音頭ができて 40 周年）。